

事後評価報告書(日本-イスラエル研究交流)

1. 研究課題名：「中枢神経における細胞核構造とクロマチンダイナミクスの解析」

2. 研究代表者名：

日本側： 群馬大学大学院医学系研究科 准教授 滝沢琢己

相手側： Hebrew University Associate Professor Eran Meshorer

3. 総合評価：（ B ）

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

本研究課題は、日本側が分子生物学的手法によるクロマチン構造解析を行い、イスラエル側が生細胞イメージングを駆使して、中枢神経細胞のクロマチンダイナミクスの解明を目指したものである。研究代表者と日本側の1名の大学院生で構成される非常に小さい研究チームであるが、これは、研究代表者とイスラエル側研究者によるそれまでの共同体制に基づいている。その中で、目的とする研究にとって必須の手法である、海馬の細胞ならびに組織におけるクロマチン免疫沈降に関する共著論文を1報発表している点は、高く評価できる。このほか、ニューロンが興奮すると起きる神経活動依存的な転写には、PARP-1依存性のヒストンH1のダイナミクスの変化が関与していることを見出しまたアストロサイト分化過程における遺伝子座核内配置の変化を明らかにするなど、一定の研究成果があげられているものの、原著論文発表につながっていないことは残念である。今後、これらの成果が共著論文として発表されることを期待したい。

(2)交流活動の評価について

互いの研究室を訪問して打ち合わせを行うなど、密に連絡をとり、お互いの得意な技術を用いて補完的に研究を進めたといえる。また、両国におけるセミナー開催も交流を深めることにつながっており、事業趣旨に照らして交流の成果として一定の評価ができると考える。一方で、より人材育成の点で効果的と考えられる長期の派遣がなかったのは残念な点である。今後の交流の継続を期待したい。